

多文化共生について

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より）」です。

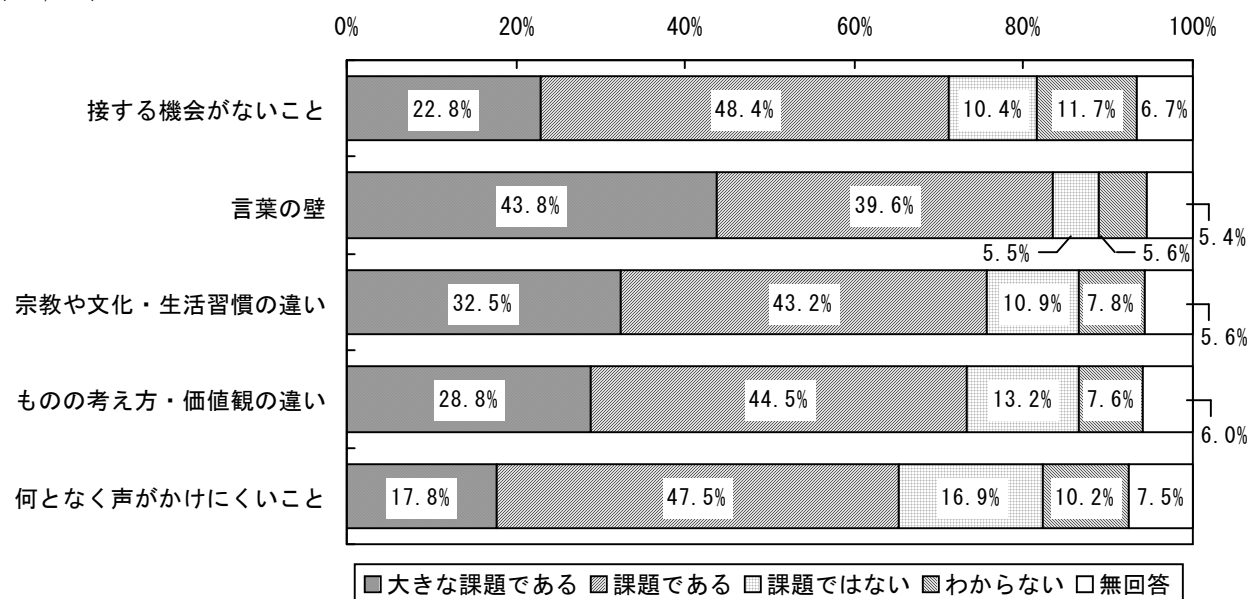
外国人労働者の受け入れ拡大に向けた法律が施行される等、社会情勢が大きく変化する中で、外国人と日本人がともに、国籍や言語、文化の違いを尊重しながら、安心して暮らせるまちづくりの検討が必要となっています。

問 29. 皆が安心して暮らせるまちづくりに向け、地域で日本人と外国人が相互理解を深める上での課題は何だと思えますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 地域で日本人と外国人が相互理解を深める上での課題をみると、「大きな課題である」の割合は、〈言葉の壁〉(43.8%)で最も多く、次いで「〈宗教や文化・生活習慣の違い〉(32.5%)、〈ものの考え方・価値観の違い〉(28.8%)となっている。

■ 地域で日本人と外国人が相互理解を深める上での課題

(N=1,788)



- 選択肢の「F. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。

- 性・年齢別に「大きな課題である」の割合をみると、男女共に30歳代以下では、〈言葉の壁〉〈接する機会がないこと〉〈何となく声がかけにくいこと〉、が全体に比べて多い傾向にある。

■性・年齢別 地域で日本人と外国人が相互理解を深める上での課題 「大きな課題である」の割合

単位：％

「大きな課題である」	N (有効回答者数)	接する機会がないこと	言葉の壁	の宗 違教 いや 文化 ・生 活習 慣	のも 違の いの 考え 方・ 価値 観	い何 こと となく 声か けに く
全体	1,788	22.8	43.8	32.5	28.8	17.8
男性・18～19歳	13	30.8	46.2	30.8	30.8	23.1
男性・20～29歳	41	34.1	43.9	22.0	29.3	36.6
男性・30～39歳	70	35.7	60.0	38.6	32.9	22.9
男性・40～49歳	98	21.4	37.8	35.7	32.7	16.3
男性・50～59歳	134	20.9	49.3	32.8	31.3	11.2
男性・60～69歳	120	20.0	40.0	33.3	35.8	15.8
男性・70～79歳	144	13.2	42.4	38.2	28.5	13.2
男性・80歳以上	67	11.9	32.8	26.9	16.4	19.4
女性・18～19歳	17	23.5	58.8	29.4	17.6	29.4
女性・20～29歳	50	44.0	58.0	24.0	26.0	32.0
女性・30～39歳	130	36.9	51.5	36.2	30.0	26.2
女性・40～49歳	212	26.9	45.3	33.5	32.5	23.1
女性・50～59歳	203	25.1	52.2	41.9	32.5	18.2
女性・60～69歳	162	17.3	45.7	30.9	27.2	11.7
女性・70～79歳	162	17.9	29.6	25.3	20.4	12.3
女性・80歳以上	86	12.8	30.2	19.8	24.4	11.6

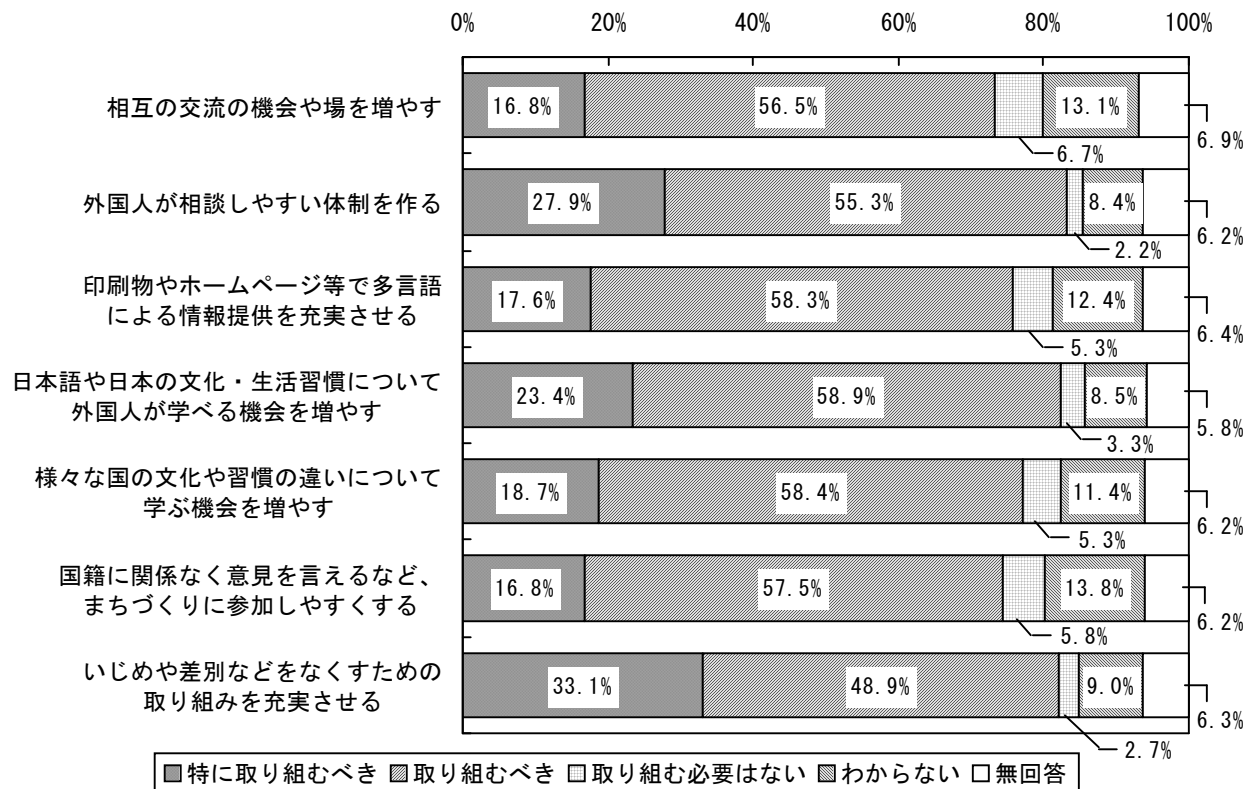
- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

問 30. 国籍や言語、文化の違いに関係なく、皆が安心して暮らせるまちづくりに向けて、市が取り組むべきことは何だと思えますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 国籍や言語、文化の違いに関係なく、皆が安心して暮らせるまちづくりに向けて、市が取り組むべきことをみると、「特に取り組むべき」の割合は、〈いじめや差別などをなくすための取り組みを充実させる〉（33.1%）で最も多く、次いで〈外国人が相談しやすい体制を作る〉（27.9%）、〈日本語や日本の文化・生活習慣について外国人が学べる機会を増やす〉（23.4%）となっている。

■ 国籍や言語、文化の違いに関係なく、皆が安心して暮らせるまちづくりに向けて、市が取り組むべきこと

(N=1,788)



- 選択肢の「H. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。

- 性・年齢別に「特に取り組むべき」の割合をみると、〈いじめや差別などをなくすための取り組みを充実させる〉は20歳代の男性、20～30歳代の女性で全体に比べて多い。〈外国人が相談しやすい体制を作る〉は30歳代以下の女性で全体に比べて多い。〈印刷物やホームページ等で多言語による情報提供を充実させる〉は40歳代の男性、および、20歳代以下の女性で全体に比べて多い。
- また、20歳代の女性に関しては、全体と比べ、すべての取り組みに対して「特に取り組むべき」とする傾向となっている。

■性・年齢別 国籍や言語、文化の違いに関係なく、皆が安心して暮らせるまちづくりに向けて、市が取り組むべきこと

「特に取り組むべき」の割合

単位：％

「特に 取り組むべき」	N (有効回答者数)	相互の 交流の 機会や 場を増 やす	外国 人が 相談し やすい 体制を 作る	印刷 物や ホーム ページ 等で 多言語 による 情報 提供を 充実さ せる	日本 語や 外国 人が 学べ る機 会を 増やす	日本 語や 外国 人が 学べ る機 会を 増やす	日本 語や 外国 人が 学べ る機 会を 増やす	日本 語や 外国 人が 学べ る機 会を 増やす	日本 語や 外国 人が 学べ る機 会を 増やす
全体	1,788	16.8	27.9	17.6	23.4	18.7	16.8	33.1	
男性・18～19歳	13	7.7	38.5	23.1	23.1	15.4	23.1	30.8	
男性・20～29歳	41	17.1	34.1	26.8	31.7	26.8	24.4	51.2	
男性・30～39歳	70	24.3	31.4	15.7	24.3	21.4	21.4	37.1	
男性・40～49歳	98	22.4	36.7	29.6	30.6	24.5	22.4	35.7	
男性・50～59歳	134	15.7	24.6	11.9	22.4	15.7	10.4	26.9	
男性・60～69歳	120	15.8	23.3	14.2	31.7	21.7	13.3	29.2	
男性・70～79歳	144	16.0	19.4	10.4	23.6	16.7	12.5	23.6	
男性・80歳以上	67	13.4	17.9	13.4	17.9	13.4	11.9	22.4	
女性・18～19歳	17	23.5	52.9	35.3	35.3	17.6	29.4	23.5	
女性・20～29歳	50	20.0	48.0	36.0	34.0	24.0	32.0	52.0	
女性・30～39歳	130	25.4	38.5	25.4	26.2	30.8	26.2	48.5	
女性・40～49歳	212	21.7	37.3	22.2	21.2	21.7	18.9	40.6	
女性・50～59歳	203	16.3	31.5	22.7	25.1	20.2	18.2	35.5	
女性・60～69歳	162	12.3	27.2	16.0	18.5	14.8	11.7	32.1	
女性・70～79歳	162	10.5	14.8	9.3	18.5	12.3	8.6	28.4	
女性・80歳以上	86	5.8	10.5	3.5	14.0	7.0	10.5	15.1	

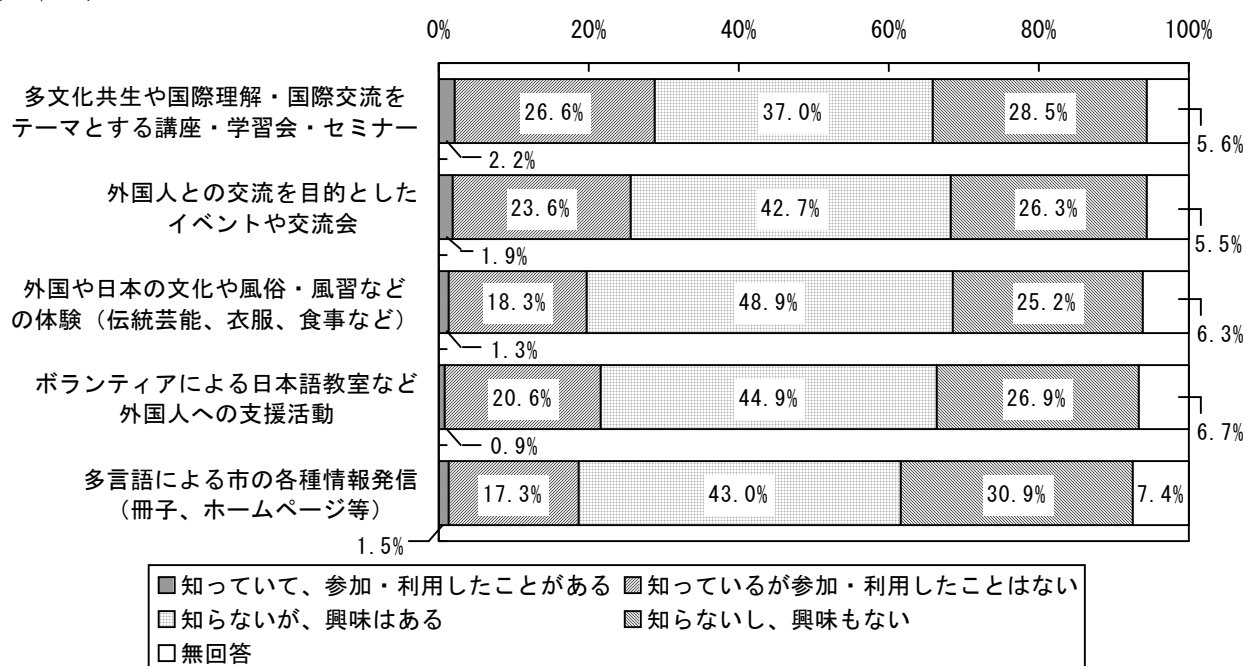
- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
- 表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

問 31. 西宮市や西宮市国際交流協会、市民団体などが次のような多文化共生に向けた取り組みを行っていることを知っていますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 多文化共生に向けた取り組みの認知度をみると、「知っていて、参加・利用したことがある」の割合は、すべての取り組みで3%未満となっている。
- 「知らないが、興味はある」の割合は、〈外国や日本の文化や風俗・風習などの体験〉(48.9%)で最も多く、次いで〈ボランティアによる日本語教室など外国人への支援活動〉(44.9%)、〈多言語による市の各種情報発信〉(43.0%)など、すべての取り組みで約4~5割となっている。

■多文化共生に向けた取り組みの認知度

(N=1,788)



●選択肢の「F. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。

- 性・年齢別に、「知っているが参加・利用したことはない」の割合をみると、〈多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー〉では、50歳代の女性が全体に比べて多い。
- 性・年齢別に、「知らないが、興味はある」の割合をみると、20歳代の女性ではすべての取り組みが全体に比べて多い。
- 30歳代の男性では〈外国や日本の文化や風俗・風習などの体験〉〈外国人との交流を目的としたイベントや交流会〉、30歳代の女性では〈外国人との交流を目的としたイベントや交流会〉、50歳代の女性では〈外国や日本の文化や風俗・風習などの体験〉〈ボランティアによる日本語教室など外国人への支援活動〉が全体に比べて多い。

■ 性・年齢別 多文化共生に向けた取り組みの認知度 「知っているが参加・利用したことはない」の割合

単位：％

	N (有効回答者数)	多文化共生や国際理解・学習会・国際交流をテーマとする講座・セミナー	外国人との交流を目的としたイベントや交流会	外国や日本の文化や風俗・風習などの体験（伝統芸能、衣服、食事など）	外国人への支援活動 ボランティアによる日本語教室など	多言語による市の各種情報発信 (冊子、ホームページ等)
全体	1,788	26.6	23.6	18.3	20.6	17.3
男性・18～19歳	13	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0
男性・20～29歳	41	14.6	22.0	19.5	19.5	26.8
男性・30～39歳	70	12.9	10.0	8.6	7.1	12.9
男性・40～49歳	98	23.5	22.4	20.4	21.4	21.4
男性・50～59歳	134	24.6	20.9	14.9	17.2	14.2
男性・60～69歳	120	25.0	24.2	20.8	24.2	18.3
男性・70～79歳	144	25.0	25.7	17.4	14.6	16.7
男性・80歳以上	67	31.3	20.9	11.9	20.9	13.4
女性・18～19歳	17	23.5	11.8	29.4	29.4	5.9
女性・20～29歳	50	18.0	8.0	12.0	6.0	10.0
女性・30～39歳	130	22.3	15.4	14.6	16.2	18.5
女性・40～49歳	212	26.9	26.4	19.8	23.6	20.3
女性・50～59歳	203	37.4	32.0	21.7	23.2	19.7
女性・60～69歳	162	34.6	30.2	22.8	25.9	19.1
女性・70～79歳	162	32.1	29.6	21.6	29.0	19.8
女性・80歳以上	86	16.3	14.0	12.8	15.1	7.0

- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

■性・年齢別 多文化共生に向けた取り組みの認知度 「知らないが、興味はある」の割合

単位：％

「知らないが、興味はある」	N (有効回答者数)	多文化共生や国際理解・学習・国際交流を	外国人との交流を目的とした	外国や日本の文化や風俗・風習などの体験(伝統芸能、衣服、食事など)	外国人への支援活動	多言語による市の各種情報発信(冊子、ホームページ等)
		テーマとする講座・学会・セミナー	イベントや交流会		ボランティアによる日本語教室など	
全体	1,788	37.0	42.7	48.9	44.9	43.0
男性・18～19歳	13	61.5	53.8	61.5	53.8	61.5
男性・20～29歳	41	46.3	43.9	48.8	46.3	39.0
男性・30～39歳	70	45.7	52.9	60.0	51.4	47.1
男性・40～49歳	98	39.8	45.9	50.0	46.9	39.8
男性・50～59歳	134	40.3	42.5	51.5	44.8	46.3
男性・60～69歳	120	38.3	36.7	42.5	40.8	41.7
男性・70～79歳	144	39.6	44.4	50.7	50.0	45.1
男性・80歳以上	67	17.9	25.4	26.9	23.9	26.9
女性・18～19歳	17	29.4	35.3	41.2	35.3	41.2
女性・20～29歳	50	54.0	70.0	60.0	60.0	58.0
女性・30～39歳	130	43.1	56.2	53.8	51.5	46.2
女性・40～49歳	212	42.9	48.1	55.7	53.8	45.8
女性・50～59歳	203	36.9	47.3	59.1	55.7	49.8
女性・60～69歳	162	40.1	44.4	53.1	46.9	49.4
女性・70～79歳	162	18.5	22.8	32.1	26.5	29.0
女性・80歳以上	86	26.7	29.1	33.7	24.4	29.1

- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
- 表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

施策に向けての一言 〈多文化共生について〉

問 29 は地域で日本人と外国人が相互理解を深める上での課題と思われる各項目について、「大きな課題である」「課題である」「課題ではない」「わからない」から選択してもらう形式で尋ねている。

「大きな課題である」の割合が最も多い項目は「言葉の壁」(43.8%)で、「宗教や文化・生活習慣の違い」(32.5%)、「ものの考え方・価値観の違い」(28.8%)などが続く。まず会話の難しさが高い障壁になっているようである。この「言葉の壁」について性・年代別に見ると(54 ページ)、30 歳代男性と 20 歳代女性において顕著に意識されているようである。

国籍や言語、文化の違いに関係なく、皆が安心して暮らせるまちづくりに向けて、市が取り組むべきこと(問 30)について、「特に取り組むべき」の割合が高いのは、「いじめや差別などをなくすための取り組みを充実させる」(33.1%)で最も多く、次いで「外国人が相談しやすい体制を作る」(27.9%)、「日本語や日本の文化・生活習慣について外国人が学べる機会を増やす」(23.4%)となっている。市に対して外国人の窓口となることが期待されているようだ。これについて性・年齢別に見ると(56 ページ)、「いじめや差別などをなくすための取り組みを充実させる」について 20 歳代の男性、20~30 歳代の女性が全体に比べて高い値を示している。この集団についてはさらに踏み込んで話を聴く機会を設けても良いかもしれない。

問 31 は西宮市や西宮市国際交流協会、市民団体などの取り組みについて尋ねている。「知っている、参加・利用したことがある」という人の割合は、最も高いもので「多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー」の 2.2%にとどまる。またすべての項目において、4 割程度の方は「知らないが、興味はある」と答えている一方、25~30%程度の人々は「知らないし、興味もない」と答えている。取り組みへの認知を広めることが大事であろう。59 ページの性・年齢別の表から、取り組みに対する認知が相対的に低い 20 歳代、30 歳代は興味自体は逆に高いことがわかる。ここにおいても 20~30 歳代へのさらなるアプローチが鍵になりそうである。

(関西学院大学 山田真裕)